

小学校 社会科 部会

部会長名 香春小学校 校長 高瀬 美智也
実践者名 香春小学校 教諭 山本 公平

1 研究主題及び副題

思考力・判断力・表現力を育む社会科学学習指導

～ 資料を活用し自分の考えを発展させる言語活動の充実を通して ～

2 主題設定の理由

(1) 社会的な背景から

刻々と変わっていく日本の政治・社会情勢、東日本大震災など相次ぐ自然災害、更には高度情報化や国際化など、現代社会は非常に激しい変化の中におかれている。その中において、これらの変化に対応できる力、生涯にわたって学び続ける力、自分の力で生き抜いていくことのできる力、すなわち「確かな学力」の育成が重要となってくる。そのため、社会科では学校教育を通じて「日本や世界の諸事情に関心をもって、多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度の育成」を大きなねらいとして掲げている。また、OECDの PISA 調査や全国学力・学習状況調査において、わが国の児童生徒については、思考力・判断力・表現力等の読解力を問う問題や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題が見られた。特に、全国学力・学習状況調査では、国語科、算数科とも知識・技能を活用する力すなわち、思考力・判断力・表現力等に課題があることが指摘され続けている。そこで、これからの社会を主体的に生き抜いていく児童の育成には「思考力・判断力・表現力を育む」ための学習活動・学習支援の工夫が重要であると考えた。

(2) 新学習指導要領改訂の趣旨から

今回の新学習指導要領の改正では、「言語活動」の充実が示されたことは、大きな特色の一つである。小学校学習指導要領解説社会編にも「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して課題を解決する力を身に付けていくためには、地図や統計などの各種の資料から必要な情報を読みとる力、社会的事象の意味、意義を資料をもとに解釈する力、事象の特色や事象間の関連を説明する力、自分の考えを論述する力などが必要である」ことが説明されている。このように、社会科における活用力や課題を探究する力、すなわち、思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための大切な役割として言語活動を位置づけることは重要である。

(3) 児童の実態から

本学級の児童は、何事も一生懸命に取り組み、こつこつと学習する態度は身につけている。しかし、自分の考えを書いたり、発言したりすることは苦手な児童が多い。このことは、多くの知識や情報を得ようとする意欲に乏しく、根拠をもとに自分の考えをもったり、色々な考えの中から新たな考えを創り出したりすることが苦手であるということにもつながってくると言える。そのため、様々な情報を集め、それらを根拠にして自らの考えを生

みだ出したり、交流活動を通して、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりしながら、自分の考えに自信をもたせ、新たな考えや疑問を生み出す活動は、大変意義深いと考える。

3 主題の意味

(1) 思考力・判断力・表現力を育むとは

単元や授業において、基礎的・基本的な知識・技能を習得させながら、これらを活用して課題を解決するために必要とされる能力が、思考力・判断力・表現力である。思考力とは、必要な情報を取捨選択し、それらを関連付ける中で自分の考えを作り上げる力である。判断力とは、今までの経験や収集した情報をもとに決断していく力である。その決断には、必要な情報をもとにして、自分なりの確かな根拠をもっていることが必要であり、確かな根拠をもち自分の考えを作り上げる過程において思考力が発揮される。表現力とは、思考・判断したことを話したり書いたり、まとめたりして、自分の考えを表していく力であり、習得した知識・技能を活用しながら考えたことを説明したり、自分の意見としてまとめたりする力である。つまり、三つの力は一つ一つ切り離して考えるのではなく、関連する能力として総合的にとらえ育成していくことが重要であると考えられる。

(2) 資料を活用し自分の考えを発展させる言語活動の充実を通してとは

「資料」とは、問題を解決するために、その結論を導くための根拠となるものである。グラフや表、文章、地図、図、写真、実物など、様々なものが考えられる。児童自らが見つけ出す場合もあるし、教師から与える場合もある。児童自ら発見する場合でも、教師が与える場合でも、教師が与える場合でも、ただ量を求めるのみではなく、見通しをもって選んだり探したりせねばならない。

「資料を活用し」とは、学習問題の解決に向けて、必要な資料を正確に読みとること、読み取ったデータを分析し説明すること、さらにはそれらをもとに自分の考えをつくり出すことであると考えられる。

「自分の考えを発展させる」とは、自分で調べたり、自分が知った事実や課題解決に向けて自分なりに分析したこと、思考したことなどを根拠として、今までの自分の考えを修正したり、自分の考えに付加したりしながら新たな自分の考えをつくりだしていくことである。

「言語活動の充実」とは、児童の実態や単元、学習する場所などいろいろな要素を考慮して、適切な言語活動を選び、活用していくことである。様々な言語活動を充実させることが、思考力・判断力・表現力を育むために必要である。

なお、授業における各段階の基本的な言語活動を以下のように位置づける。

<導入の段階>

- ・資料を読み取り課題へとつなげる。

<展開の段階>

- ・学習課題の追求や解決に必要な情報を集めたり、読み取ったりする。

<まとめる段階>

- ・情報を整理しまとめ、社会的事象の様子を理解する。

- ・情報を整理したりまとめたりすることで、比較・関連付け・総合などの思考をはたらかせ、社会的事象の意味や特色、相互の関連を考え、理解する。

4 研究の目標

社会科における思考力・判断力・表現力を育成するための具体的方策として、課題を解決するために、適切に資料を選択活用し、それらをもと解決のための根拠を見いだし、自分の考えを付加修正しながら新たな考えをつくりだすための支援のあり方を探っていく。

5 研究の仮説

社会科学習指導において、下記のような方策を取り入れれば、子どもの学習意欲は高まり、思考力・判断力・表現力を養うことができるであろう。

- ① 問題解決的な学習につながる学習課題の設定
- ② 考えを発展させていくためのつながりをもたせる言語活動の設定

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 単元名 「身近な暮らしと政治」

(2) 単元の目標及び指導計画

〔目標〕

- 公共施設の建設や政治の働きに関心を持ち、進んで調べることができる。
(関心・意欲・態度)
- 地方公共団体や国の政治はわたしたちの願いと大きく関わりながら進められていることについて考え、文章や図で表現することができる。
(思考・判断・表現)
- 各種資料を調べる活動を通して、政治の働きや税金の役割について調べることができる。
(技能)
- 政治のしくみと働き、選挙や租税の役割などについて理解できる。
(知識・理解)

〔指導計画〕（総時数 6 時間）

主 な 学 習 活 動	時	評 価 規 準
1 香春町にどんな公共施設ができるのか考え、学習計画を立てる。	1	○公共施設の建設に関心を持ち、意欲的に調べることができたか。 (関心・意欲・態度)
2 世田谷区の子育て支援事業の取り組みを通して、住民の願いが実現するためにはどんな人たち（機関）がどんな関わりをしているのか考える。	1	○世田谷区の子育て支援の様子から、住民の願いとのつながりを考え、表現することができる。 (思考・判断・表現)

3 だれもが住みやすいまちにするために、どのようなまちづくりが行われているか考える。	1	○住民と地方公共団体が協力して住みよいまちづくりが行われていることを理解することができる。 (知識・理解)
4 住民の願いと政治はどのようなしくみでつながっているかを考える。	1	○地方公共団体の取り組みには、議会を通して住民の意思が反映されていることをとらえ、適切に表現することができる。 (思考・判断・表現)
5 税金にはどんなものがあり、どんな役割を果たしているのかを考える。	1	○税金の種類や役割について理解することができる。 (知識・理解)
6 税金のない社会を考えることで、税金の大切さに気づく。	1 本時	○税金は国民生活の安定と向上を図るために大切なはたらきをしていることを考え、適切に表現することができる。 (思考・判断・表現)

7 指導の実際

(1) 主眼

税金が果たしている役割について、「必要」か「不要」かの立場で自分の考えを交流する活動を通して、税金が国民生活に大切な役割を果たしていることに気付くことができる。

(2) 授業仮説

本時において、以下の手だてをとれば税金が自分たちの生活に大きな役割を持っていることに気付き、その大切さについて考えることができるであろう。

- ① 税金のメリット、デメリットの両方を考えさせ、グループで交流する活動을 設け、その場でどちらの立場に立つかを決めさせる。
- ② 税金のない世界を体験し、思ったことや考えたことを交流させる。

(3) 準備

教師：収入と税金による支出の表、

児童：教科書、ノート、ワークシート

(4) 展開

段階	学 習 活 動	○具体的な指導・支援 ◎評価の視点
導入	1 前時学習を想起し、本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈めあて〉 税金のある世界とない世界では、どちらがいいのだろう。</p> </div>	○ある事例をもとに税金が必要か否かを考えさせる。 ※Aさん (28歳独身) 年収 366 万 税金 年 40 万程度

展	<p>2 税金がないとどうなるかを考えて書く。</p> <p>3 考えをグループで交流し、どちらの立場に立つかを決め、全体交流をする。</p> <div data-bbox="255 560 758 1086" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>--- 〈予想される児童の反応〉 -----</p> <p>(よい点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入が増える。 ・生活が楽になる。 ・税金を払わないでいいのでうれしい。 <p>(困る点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のものや学校生活に関わるものを使えない。 ・病院や福祉のことで困ることがある。 ・税金でいろいろなものを買っているからないといけない。 </div> <p>4 税金のない社会を体験し、意見交流をする。</p>	<p>○個人の考えを自由に書かせる。</p> <p>○税金がないことのメリット、デメリット両方の立場から書かせる。</p> <p>○両方の立場から書けない子にはどちらかだけでもいいようにする。</p> <p>○グループでの交流は意見・考え、その理由という発表の仕方で行わせる。</p> <p>○学習リーダーを中心に発表させる。</p> <p>○グループの話し合いを受け、メリット、デメリットのどちらかの立場になるように確認する。</p> <p>○よい点も困る点もどちらとも共感的に聞くように確認し、お互いの意見を出し合うようにする。</p>
	開	<div data-bbox="255 1220 758 1691" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>もし税金がなければ・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通事故にあった (救急車や警察を呼ぶとお金をとられる) (病院で治療してもらった後に多額の費用を請求される) など ○学校の入学式 (教科書が販売されている) (机やイスのレンタル料が書かれているチラシがある) (月謝を払うように説明を受ける) など </div> <p>5 本時の学習のまとめをする。</p>
ま と め る	<div data-bbox="287 1780 1348 1971" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>〈まとめ〉</p> <p>○ 税金がある世界もない世界もそれぞれよい点、困る点はあるが、わたしたちの暮らしには税金が大きく関わっており、とても大切な役割を果たしている。</p> </div>	

8 授業の考察

授業の導入段階で、例として平均的な収入と税金による支出の表を提示した。児童は、これまで税金がどんなものに使われているか、またどんな税金があるかを学習してきた。ただ、それらをより具体的に理解させるために実際の年収と約 10 %強が税金として使われているという関係を示し、児童にその金額を実感させた。

次に考えをつくり、交流する段階ではまず個人で考えをまとめる時間を設定した。ここでは前時に学習した税金の使い道や実際の自分たちの生活などからそのメリットやデメリットを考えさせた。導入段階での実際にどれくらいの税金を払わないといけないのかなども考えをつくるための資料とするように話しをしていった。

この場面では既習の内容や提示された資料、自分の持っている知識などを関連づけたり、比較、推測したりしながら思考が活発になるようになればと考え、そのことから自分なりの考えを表現することができると考えた。実際に個人の考えを書く場面では、前時までの学習内容を生かし、社会保障や教育費などで生活が困るという意見、また消費増税など自分たちの生活に密着した話題を考えることで、税金の支出がないことが楽になるという考えをつくり出し、書くことができた子どもたちが多数いた。一方税金があるといいという意見も様々なサービスやこれまでの学習を思い出しながら考えを書くことができた。

さらに、グループでの交流活動を行った。グループでの交流では自分の意見を説明し、他の意見を聞く中で税金が必要か否かを決定させることを目的にするだけでなく、他の意見を聞くことで自分の考えを深めたり、新たな考えを持たせたりすることを考えた。自分たちの考えを持って交流活動に参加することで、それぞれ自分たちの考えをしっかりと説明することはできていた。そのことで、グループでの交流も活発に行えており、それぞれが同じ方向で話し合いができていた結果だと思う。ただ、考えが広がったり、深まったりしたかという点では十分結果が見られなかった。

その後、子どもたちにより具体的に税金をイメージさせるために「税金のない社会」を体験する場を設定した。「交通事故」にあった場合や「病院」に行った場合、「学校」に行った場合など税金が使われているところで税金がないとどうなるかというのを全員で確認していった。

「救急車」や「警察」を呼ぶことが税金と結びついていることにはすぐには気付かなかったようであり、税金の必要性が高まっていったようである。ここでも子どもたちはいろいろなケースを推測したり、比較したりしながら自分たちの思考をさらに深めていったと考えられる。

これらの活動を通して児童は税金が自分たちの生活に密着していることを自覚し、その大切さを実感したと考えられる。

資料 1 最後の子どもたちの感想より



写真 1 交流活動の様子

- 消費税が上がったときは嫌だと思ったけど税金は自分たちの暮らしの中でとても大事なということがわかりました。
- 自分たちも働き始めたら税金を払うので、いろいろな人に役立ってほしいです。
- はじめは税金がない社会がいいと思ったけれど、税金がなければ今よりもっと大変な社会になるということがわかりました。

9 成果と今後の課題

〈成果〉

○税金は子どもたちにとって身近なものであり、それが必要か否かということを考えることは結構考えやすかったようだ。そのことが交流活動を行う上で有意義であったと考えられる。

○学習の導入から連続しての言語活動を仕組むことができ、常に子どもたちが考えながら学習に参加できた。

○関連づけたり、推測したり、比較したりする思考の要素を活用することで、自分の考えをしっかりと持つことができ、その結果児童相互で交流し、考えあう姿が見られた。

○税金がない世界を体験させることでこれまで当たり前のようにしていたことが税金のおかげでできていたことを体感できた。

〈課題〉

●活動をたくさん仕組みすぎたせいで、どの活動も十分な時間を確保できずに、考えを深めることができない児童も見られた。

●社会事象に関する知識が十分にできていない。もっといろいろな場面で知識を身につけさせる必要性を感じた。

●交流活動では自分の考えを発表することはできたが、考えをまとめたり、比較したりしながら交流をするということはまだまだできない。いろいろな学習の中で交流の仕方を鍛えていく必要がある。

●単元全体を通して考えると、児童が身近に感じない内容で学習を進めてしまっている。身の回りにあるものから児童の興味を引くような内容の教材を開発し、学習を進めていくことを考えていきたい。

◇ 参考文献

- ・ 小学校学習指導要領解説 社会編 (文部科学省)
- ・ 小学校新学習指導要領の展開 社会編 (明治図書)
- ・ 言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】 (文部科学省)
- ・ 論理的な思考力・表現力の育て方 八和田清秀 (明治図書)
- ・ くらしをささえる税金 (福岡県租税教育推進協議会)